

# 道の駅「蓮如の里あわら」

---

## 基本計画

令和3年3月

あわら市 

# 目次

1	「道の駅」の概要	1
2	道の駅整備の目的と意義	4
3	道の駅の目指すべき方向性とコンセプト、名称等	12
4	道の駅整備の計画地及び周辺関係施設等	14
5	道の駅導入機能及び施設等	20
6	近隣施設等	35
7	ゾーニング計画	41
8	施設配置計画	44
9	空間計画・意匠計画	48
10	管理運営の基本方針	50
11	整備の基本方針	54
	参考資料 あわら市道の駅基本計画策定委員会	57

# 1

## 「道の駅」の概要

### 1 道の駅の概要

「道の駅」は、令和2年7月1日現在1,180駅登録されています。そのうちあわら市が位置する近畿局では149箇所あり、福井県内には16箇所設置されています。

- ・国土交通省「道の駅」制度の概要は以下のとおりです。

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。

また、人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供することができます。

さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の三つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生しました。

国土交通省道路局ホームページ抜粋

近年では、地域活性化の拠点として「特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの」を全国モデル「道の駅」として選定し、それに続く「地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの」を重点「道の駅」として重点的に支援を行っています。

近年注目されている機能としては、東日本大震災時に評価の高まった「地域防災機能」や6次産業化を含む「地域産業振興拠点機能」や「地域のにぎわい拠点機能」などが挙げられます。

<p>全国モデル「道の駅」 (H26 選定 6 駅)</p>	<p>地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の「道の駅」を対象に、国土交通大臣が選定</li> <li>・観光、産業、福祉、防災等、地域資源の活用や地域の課題解決を図るための地域のゲートウェイや地域センターとして機能</li> <li>・設置から一定年数（10年以上）、継続的に地域に貢献</li> </ul>
<p>特定テーマ型モデル「道の駅」 (H28 住民サービス部門 6 駅) (H29 地域交通拠点部門 7 駅)</p>	<p>特定のテーマについて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地の「道の駅」の模範となる成果をあげている「道の駅」を対象に、国土交通大臣が認定</li> <li>・「道の駅」が有する個々の「機能」が異なる点を踏まえ、模範性を高めるために、テーマ（部門）を設定</li> <li>・全国の「道の駅」からの視察及び講師の要請に対応するなど、「道の駅」の質的向上に貢献する役割</li> </ul>
<p>重点「道の駅」 (H26 選定 35 箇所) (H27 選定 38 箇所) (H30 選定 15 箇所) (R1 選定 15 箇所)</p>	<p>地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「道の駅」の整備の企画段階から、国土交通大臣が選定</li> <li>・取組の先駆性、効果、実現可能性に基づき、優れた企画を選定</li> </ul>
<p>重点「道の駅」候補 (H26 選定 49 箇所) (H30 選定 14 箇所) (R1 選定 15 箇所)</p>	<p>地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「道の駅」の整備の企画を対象に、地方整備局長等が選定</li> <li>・取組の具体化に向けた地域の意欲的な体制整備等に基づき、選定</li> </ul>

国土交通省道路局ホームページ抜粋

## 2 道の駅の登録要件

一定水準以上のサービスを提供できる休憩施設を「道の駅」として登録し、広く利用者に案内することを目的に「道の駅」登録案内制度が定められています。その主な登録要件は次のとおりです。

### 【施設位置】

- ・休憩施設としての利用しやすさ、「道の駅」相互の機能分担の観点から、適切な位置にあること。

### 【施設構成】

- ・休憩目的の利用者が無料で利用できる十分な容量の駐車場と清潔なトイレを備えるとともに、それらの施設及び施設間を結ぶ主要な歩行経路のバリアフリー化が図られていること。
- ・利用者に多様なサービスを提供する施設であって、道路及び地域に関する情報を提供する案内所及び案内コーナーがあるもの（「案内・サービス施設」）。
- ・子育て応援施設として、乳幼児に対する授乳やおむつ交換が可能なスペースが備わっていること（「ベビーコーナー」）。

### 【提供サービス】

- ・駐車場、トイレ、ベビーコーナー、電話は、24時間利用可能であること。
- ・「案内・サービス施設」には、原則として案内員を配置し、親切な情報提供がなされること。

### 【設置者】

- ・案内・サービス施設の設置者は、市町村又は市町村に代わり得る公的な団体（以下「市町村等」）であること。なお、「案内・サービス施設」の管理または運営を市町村等以外が行う場合、契約等により「道の駅」としての必要なサービスが確保されるよう配置されていること。

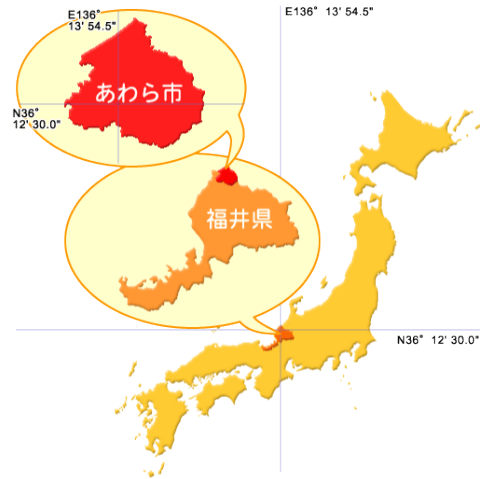
### 【配慮事項】

- ・女性・年少者・高齢者・障がい者・妊婦や乳幼児連れなど様々な人の使いやすさに配慮されていること。
- ・施設計画は景観に十分配慮し、特に景勝地にあつては、地域の優れた景観を損なうことのないように計画されていること。

## 2 道の駅整備の目的と意義

### 1 あわら市の立地条件

福井県あわら市は、県の最北端に位置し、西と南は福井県坂井市、そして北東は石川県加賀市に隣接し、北西は日本海に面しています。面積は116.98平方キロメートルで、地形は北部の丘陵地、南西部の平坦地、東部の山岳地帯と大きく3つに分かれています。



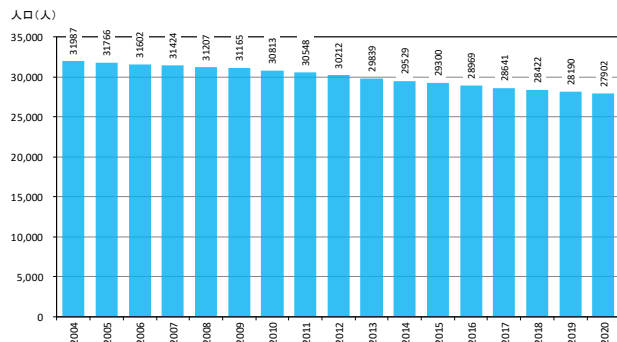
### 2 あわら市の状況

あわら市には、緑豊かな山々、市の中心部を流れる竹田川、県内第3位の大きさをもつ北潟湖、県内最大の園芸産地である坂井北部丘陵地、広大で稲作が盛んな田園地帯、そして越前加賀国定公園に指定されている日本海の海岸線などの豊かな自然を始め、明治期に開湯した県内随一の温泉地「あわら温泉」や、時代を超えて受け継がれてきた歴史・文化、伝統産業やそれらに育まれた生活など、国内外に誇ることができる数多くの魅力的な資源があります。

また、世界に誇れる技術を持つ製造業や、趣向をこらして観光客をおもてなしする旅館業、大地の恵みを生かして作物を育てる農業など、さまざまな産業がバランス良く集積しています。

2016（平成28）年3月には第2次あわら市総合振興計画を策定し、「暮らしやすくて 幸せを実感できるまち」を基本理念に各種施策を進めているところです。

あわら市の人口は、旧芦原町と旧金津町が合併した2004（平成16）年4月が31,987人であったものの、令和2年4月は27,902人となり、約14%減少しています。この内、外国人は、508人となっています。人口減少とそれに伴う経済活動の縮小により、税収入りの減



少や加速度的な高齢化の進行に伴う社会保障費の増加が見込まれており、財政状況は厳しさを増すものと予想されます。

こうした中、令和6年春には北陸新幹線芦原温泉駅開業を控えており、地域内の経済を活性化するため、国内外の観光客を呼び込み外貨を獲得し、地域内で循環させていくことは、あわら市において喫緊の課題となっています。

このため、目前に控える北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、その開業効果を市内全域、さらには嶺北エリア全域に波及させるための施策を推進しています。

### 3 道の駅整備に関連する計画等

#### (1) 第2次あわら市総合振興計画後期基本計画（令和3年3月策定）

長期的な展望に基づいてまちづくりの将来目標を示すとともに、各分野における計画や事業の指針を明らかにするもので、市政運営の最も基本となる計画です。

●基本理念：

暮らしやすく 幸せを実感できるまち

●後期基本計画のテーマ：

誰もが 夢や希望を持ち 元気に笑顔で暮らす 活力あふれるまちへ

●後期基本計画の基本目標：

活力人口 10万人 あわら市の創造

#### (2) あわら市観光振興戦略（2019（平成31）年3月策定）

北陸新幹線県内延伸を見据え、魅力ある観光地域づくりと地域の活性化に向けた観光施策を効果的に進める観光戦略です。

●コンセプト：和心あふれる 国際的な感幸地

～ 温泉・食・人で心と体が笑顔になる観光地の創造 ～

#### (3) 芦原温泉駅周辺まちづくりプラン（2018（平成30）年7月策定）

令和6年春の北陸新幹線芦原温泉駅開業に向け、駅周辺の具体的な将来像やまちづくりの仕組などを示したプランです。

●まちづくりのテーマ：和心あふれる賑わい空間

#### (4) あわら市まち・むらときめきプラン（2019（平成31）年3月策定）

人口減少や少子高齢化が急速に進む中、活力ある豊かで魅力にあふれた集落づくりの主体的な取り組みなどを支援するプランです。

●目的：「誰もがときめく集落づくり」の推進

## 4 吉崎エリア及び周辺の概要と現状、課題

### (1) 吉崎エリアの歴史

計画地である吉崎エリアは、国内でも特色ある歴史のある地で、浄土真宗中興の祖・蓮如が、1471年から4年間で一大宗教都市をつくりあげた地でもあり、現在は「吉崎御坊跡」としてその名残をとどめています。このエリアは「蓮如の里」と呼ばれ、かつては全国から多くの参拝者が訪れる地でもありました。毎年4月には、「蓮如忌」として京都東本願寺から蓮如上人の画像「御影」を迎え入れ、盛大な法要が行われます。この地には、歴史宗教文化が息づいており、国指定の史跡にも認定されています。

### (2) 吉崎エリア及び周辺の現状

#### ① 吉崎エリア

吉崎エリアは、吉崎区と浜坂区からなり、令和2年4月におけるエリア内の人口は352人、世帯数は146世帯です。10年前に比べ、人口で120人、世帯数で25世帯減少しており、また、高齢化率は40%を超えています。

また、かつては吉崎御坊跡として、蓮如忌を中心に、県内外から多くの参拝客などがこの地を訪れ、福井県を代表する観光地として栄えていましたが、今では往時の賑わいはなく、市内でも人口減少・少子高齢化が急激に進んでいるエリアのひとつとなっています。

市内には4つのゴルフ場が点在しており、浜坂地区にはそのうちのひとつ、伝統ある「芦原ゴルフクラブ」があります。

#### ② 北潟エリア

北潟エリアは、北潟東、北潟西、赤尾区、富津区からなり、令和2年4月におけるエリア内の人口は1,307人、世帯数は416世帯です。10年前に比べ、人口で256人、世帯数で3世帯減少しており、また高齢化率は35%を超えています。

北潟湖周辺地域では、かつては農業と漁業が盛んでした。「あわら市北潟村民誌」によると、1936（昭和11）年頃の旧北潟村地区では専業農家が291戸、半農半漁は120戸ありました。しかし、現在では、専業農家は約40戸と減少し、漁業従事者も減少しています。現在、農業においては湖周辺の水田では稲作が行われるほか、ソバ、ムギ、タマネギなどが栽培されています。

北潟湖および周辺地域については、県において2003（平成15）年に「福井県重要里地里山」の30カ所に、国においては2015（平成27）年



に「生物多様性保全上重要な里地里山」の 500 カ所に認定されています。

そして、里地里山は、癒しの場として、また自然観察、農業、林業、漁業体験といったエコツーリズム、グリーンツーリズムなどの体験型の観光資源として、いろいろな価値も高まっています。

2018（平成 30）年 11 月に設立された「北潟湖自然再生協議会」では、豊かな北潟湖および周辺地域の自然環境について考え、具体的な保全と観光資源としての活用を進めています。

また、「北潟湖畔公園・サイクリングパーク」は、全長 170 メートルの自転車歩行者専用の真っ赤な斜張橋「アイリスブリッジ」が目印です。アイリスブリッジの奥にあるサイクリングターミナルでは、普通自転車、ユニークなおもしろ自転車、バッテリーカーのほか、湖上を楽しむ足こぎや手こぎのボートを貸し出しています。湖の周りを自転車でサイクリングしたり、湖でのボート遊びや釣りなどの野外レクリエーションを楽しむことができます。

さらには、富津区では全国ブランドとなったサツマイモ「とみつ金時」の露地栽培が盛んです。また、北潟湖の内水面漁業においては、フナ漁とウナギ漁が中心に行われています。

### ③ 細呂木エリア

細呂木エリアは、19 区からなり、令和 2 年 4 月におけるエリア内の人口は 3,030 人、世帯数は 958 世帯です。10 年前に比べ、人口で 430 人、世帯数で 10 世帯減少しており、また高齢化率は 35%を超えています。

自然資源は、なだらかな山林や田畑、果樹園を有す広大な平野を有しています。歴史資源は、旧北陸道が縦貫し、千束一里塚、細呂木一里塚、細呂木関所跡において、金津街中や吉崎を結ぶ道中で昔ながらの街道の面影を残しています。また、川口城址、細呂木製鉄遺跡、神宮寺城跡、多賀谷左近三経公墓所、嫁威しの谷など、古代からの先人の足跡に加え、照巖寺や専教寺などの寺社仏閣が多く点在しています。産業遺産として、宮谷の石切り場、滝の瓦、蓮ヶ浦の干拓があります。文化・スポーツ施設等は、金津創作の森やトリムパークかなづがあります。

J R 細呂木駅は、J R 芦原温泉駅から北へ 1 駅目にあり、北陸新幹線が開通した場合、新幹線発着駅からアクセスしやすい立地条件にあります。

#### ④ 坂井北部丘陵地

福井県最北部に位置するあわら市と坂井市にまたがる台地で、1986（昭和 61）年度までの 17 年の歳月をかけて、国営のパイロット事業により、約 1000 ヘクタールの畑地が整備されました。

なだらかな丘陵地には、フルーツラインと呼ばれる広域農道を中心に、メロン、スイカ、梨、柿、ブドウ、いちじくなどの農園があるほか、乗馬クラブ、農産物直売所などの施設があります。

### （3）吉崎エリア及び周辺の課題

#### ① 吉崎エリア

吉崎エリアは、あわら市の中でも少子高齢化、人口減少の進行が早く、空き家も多い地域です。今後、集落の維持も厳しくなることが予想されています。

また、観光産業の中心である吉崎御坊の観光客数も減少を続けています。観光客数は年間 5 万人程度であり、全盛期といわれる 1970（昭和 45）年の 10 分の 1 に満たない状況となっています。

吉崎エリアへの観光客が減少している理由としては、観光業に従事する人材（地域住民）が減少したこと、最盛期であった昭和 40-50 年代当時の観光スタイルから脱却が図れず、時代に合わせた観光サービスの提供ができなかったこと、そして、吉崎に宗教的な動機で訪れる信者のボリュームゾーンが高齢化したこと等が考えられます。観光客の減少に伴い観光事業者も減少し、その結果、魅力が小さくなりさらに観光客が減る、という負のスパイラルとなり、そこから脱出するためには、このエリアが持つポテンシャルや時代に合わせた形で再定義、再デザインする必要があります。

#### ② 北潟エリア

北潟湖周辺の自然再生に役立てることを目的に行った湖畔に住む住民を対象としたアンケート調査では、ほとんどの住民が北潟湖を大切に思い、良くしたいと感じていることが分かっています。

一方で、北潟湖で獲れた魚介類の食経験は若い世代ほど少なくなっていることから、地域住民の北潟湖との関わりが少なくなっていることも分かりました。アンケートからは、10 歳代（小中学生）からの回答もあり、その年上の世代よりも湖を良くしたい気持ちが芽生えていることが伺え、これは、地元の環境保全団体による環境教育（学習）の効果の現れと考えられます。

北潟湖自然再生協議会では、北潟湖周辺生物多様性保全推進事業として、大学教授等の専門家の協力の下、北潟湖周辺の鳥類、動植物、魚介類の調査に加え、ボランティア団体の協力を得て、貴重生物生息区域の除草作業等の環境整備、ウシガエル、アカミミガメなどの外来種の除去、地元小学生を対象とした自然学習、そして「北潟湖フォーラム」を開催し、北潟湖および周辺地域の自然の価値と保全に対する意識の醸成を図っています。

北潟湖畔の令和元年の総入込客数は 76,910 人で、2014（平成 26）年の 128,400 人と比べ、約 40%減少しています。

### ③ 細呂木エリア

細呂木地区は、将来推計値において、令和 10 年には高齢化率 40.4% となり、令和 2 年と比較すると、人口は約 15%減少、世帯数は約 10%の減少が予測されています。全国・県内・市内に先立ち、超少子高齢化社会を迎えることとなります。

細呂木地区は、自然・歴史資源の発掘や活用に取り組み、景観形成や観光振興で成果を得ていますが、有効な情報発信や県外からの来訪には至っていません。

今後は、受付窓口の一元化やターゲット層やニーズを踏まえた体験プログラムの企画・開発及び、利用者と直接つながるマッチング環境が必要です。

### ④ 坂井北部丘陵地

近年の担い手の高齢化、後継者不足などから、丘陵地においても耕作放棄地が見られるようになってきました。

2011（平成 23）年 4 月に設立された「丘陵地農業支援センター」では、地域担い手の確保と育成、農家支援、丘陵地の農業振興施策が行われています。

また、県が運営する「ふくい園芸カレッジ」では、園芸分野での就農を支援しています。

さらには、JA が 2006（平成 18）年に開設した「ファーマーズマーケット きららの丘」では、地元農家から提供される採れたての野菜や果物が並び、農業者の所得の向上と地域農業の活性化を推進しています。現在では、年間約 20 万人が買い物に訪れ、賑わいをみせています。

## 5 道の駅整備に至る経緯と目的、意義

あわら市は、福井県の北の玄関口として石川県加賀市と接し、北陸自動車道や国道8号、国道305号などの幹線道路を利用して多くの車両が県境を往来しています。

このうち国道305号は、越前海岸からあわら温泉、北潟湖を経て金沢市へ至る一般国道であり、沿線には東尋坊などの景勝地も多く、観光道路としての側面も有しています。

この国道305号が通るあわら市吉崎は、15世紀に浄土真宗中興の祖といわれる蓮如が御坊を開山し、布教の拠点とした地で、毎年4月の蓮如忌には県内外から多くの参拝客が訪れています。

また、かつては全国からの多くの参拝客がこの地を訪れ、福井県を代表する観光地として栄えていましたが、今では往時の賑わいはなく、市内でも人口減少・少子高齢化が急激に進んでいるエリアのひとつとなっています。

このため、この吉崎に、あわら市北部の地域資源やポテンシャルを最大限活かし、地域活性化の拠点として、休憩・情報交換、地域連携の機能をもった、地域とともに作る個性あるにぎわいの場として、あわら市初となる道の駅を整備することとします。

現在、あわら市では、地域の活性化にとって100年に1度のビッグチャンスといわれる令和6年3月の北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、駅周辺整備を着実に進めるとともに、地域資源の磨き上げや観光拠点の整備、魅力発信の強化に向けた取り組みなども併せて推進しているところです。

「北陸新幹線芦原温泉駅周辺」「あわら温泉街」「吉崎エリア」の3地点を、点から線へ、線から面へ、トライアングルに結ぶことで、市内全域の回遊性を高め、魅力的なさまざまな地域資源を活かして、周遊滞在型の観光を推進します。

また、令和5年9月には、芦原ゴルフクラブにおいて2回目の開催となる、「日本女子オープンゴルフ選手権」の開催が予定されており、県内外から約3万人のギャラリーが訪れることとなります。

こうしたことから、令和5年のこの機をしっかりと捉え、あわら市北部エリア、そして、あわら市全域に元気と活力を取り戻し、増進させ、地域住民の生活の向上や地域の活性化を図ります。

みどころたくさん!  
あわら市  
MAP



### 3 道の駅の目指すべき方向性とコンセプト、名称等

#### 1 道の駅の目指すべき方向性

道の駅は、交通利用者の休憩施設であると同時に、市の地域・観光振興、並びに情報発信の拠点であることが求められています。つまり、道の駅のみで完結するのではなく、道の駅を地域の拠点として、来訪者と地域をつなぐ役割を果たす拠点となるべき施設です。従来の「休憩」が利用目的となる道の駅ではなく、道の駅自体や地域資源を楽しむなど、「目的地」となる道の駅を目指します。

このため、さまざまなポテンシャルを秘めた吉崎を含むあわら市北部地域の強みや特徴を最大限に生かし、地域の顔として、個性的で魅力的な道の駅とします。

- 単なる通過点ではなく、機能拡充により来訪者が楽しめる道の駅を目指します。
- 地域住民が集い憩う場所、住民や来訪者が利用する物販所等を整備することで、住民生活の利便性や地域の賑わいの向上を図ります。
- あわら市北部エリアへの人の流れを作るなど、道の駅を拠点とした地域の活性化を目指します。
- 観光や市の地域の魅力に関する情報の発信拠点として、来訪者と地域を結ぶ道の駅を目指します。
- 福井県坂井市や石川県加賀市などと連携し、地場産業や広域的な観光の振興につなげます。

#### 2 道の駅のコンセプト

##### (1) 基本コンセプト

さんぽう  
「三方よし、感幸ステーション」  
住む人も来る人も地域全体も“よし”となる幸せの結節点

※「三方よし」とは、近江商人の経営哲学「商売において売り手と買い手が満足するのは当然のこと、社会に貢献できてこそよい商売といえる」という考え方。近世日本経済を支え、現代のトップ企業を生み出した近

江商人と大阪商人のルーツは、室町期の本願寺第八代・蓮如上人によって創建された我が国初の寺内町・吉崎御坊にあったといわれています。

## (2) キーワード

- **結 ぶ**…福井の北の玄関口、石川の南の玄関口として、人・モノ・コト・情報が集まる結節点
- **集 う**…地域住民や来訪者が集い、憩い、遊び、楽しむ賑わい拠点
- **育 む**…丘陵地の農産物や地元特産品の販売、郷土料理等を提供する産業振興の拠点
- **つなぐ**…観光地をつなぎ、誘客拡大を図る周遊観光の拠点
- **学 ぶ**…吉崎エリアをはじめ、あわら市北部エリアの歴史・文化や自然・環境を楽しく学べる拠点
- **安らぎ**…アウトドアスポーツ（ウォーキング・ジョギング、サイクリング）等で心身をリフレッシュし、健康増進を図る拠点

## 3 名称

道の駅の名称については、整備予定地の歴史・文化、知名度、さらには人々の親近感などを勘案し、次のとおりとします。

**道の駅「蓮如の里あわら」**

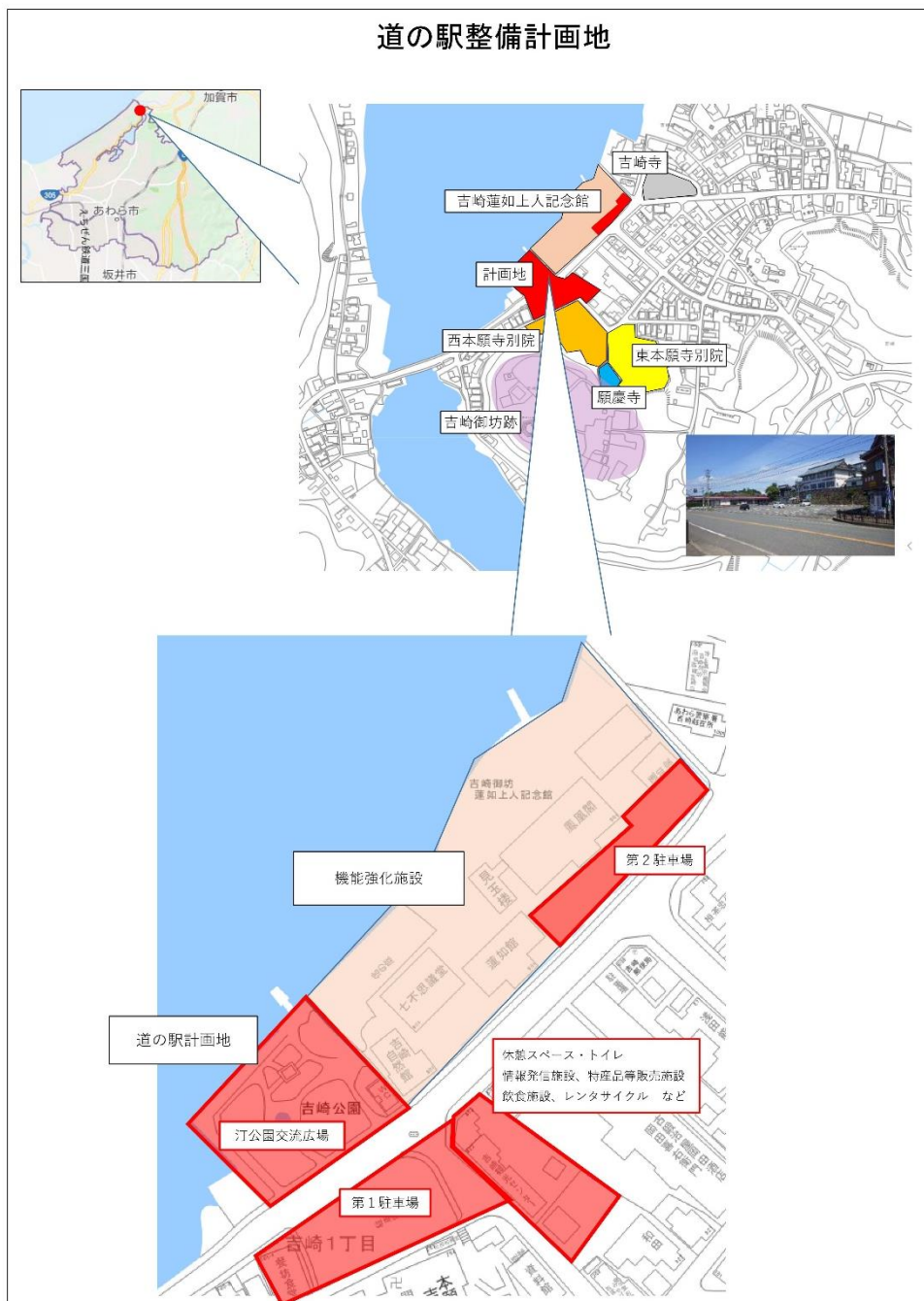
## 4 開設時期

令和5年4月中旬

## 4 道の駅整備の計画地及び周辺関連施設等

### 1 道の駅整備の計画地

吉崎御坊の県営駐車場や都市公園である「吉崎汀公園」、民間施設の「吉崎観光センター」などの既存施設のエリアと、隣接する「吉崎御坊蓮如上人記念館」のエリアを機能強化施設とし、両エリアを道の駅として機能的一体的に整備します。





この道の駅は、あわら市北部の吉崎地内を通過する国道 305 号沿いで整備を計画するものであり、周辺の既存の道の駅（さかい、みくに、山中温泉ゆけむり健康村など）からは 10km 圏域外に位置し、あわら市から加賀市にかけての海岸沿いのエリアをカバーするものです。

当該道の駅の 10km 圏域内には、北潟湖や福井県を代表する温泉地であるあわら温泉などの観光拠点が含まれ、北陸自動車道の加賀 I C や金津 I C、北陸新幹線（建設中）の芦原温泉駅などが最寄りの交通拠点となっています。



また、この道の駅は、福井県と石川県の県境付近において、吉崎御坊を中心とする門前町として栄えてきた吉崎地区の中心部に位置します。周囲には、吉崎御坊跡、吉崎西別院、吉崎東別院、願慶寺、吉崎寺、蓮如上人記念館、県境の館など、地域の歴史や文化を感じさせる資源が集積しているほか、北潟湖や鹿島の森などの景勝にも恵まれています。

道の駅計画地には、前面を通過する国道305号の2,466台/日(H27)の交通量及び当該計画地で合流する県道福井金津線の3,642台/日(H27)の計6,108台/日の交通量があります。



## 2 周辺関連施設と道の駅整備エリアの特徴

### (1) 周辺関連施設

吉崎エリアは福井県の北の玄関口であるとともに、隣接する石川県の南の玄関口でもあることから、県境を跨いだ多くの交流人口が見込まれるポテンシャルを秘めています。

吉崎御坊跡（吉崎御山）に隣接し、御山に向かう西側に、浄土真宗本願寺派の別院（吉崎西別院）が、東側に真宗大谷派の別院（吉崎東別院）があります。また、地元の寺院である願慶寺（真宗大谷派）や吉崎寺（浄土真宗本願寺派）、一般財団法人本願寺文化興隆財団が運営する吉崎御坊蓮如上人記念館、石川県との県境を跨ぐ「越前加賀県境の館」などの施設があります。

さらには、越前加賀国定公園内の日本海に面する海岸や北潟国有林、北潟湖等の豊かな自然景観を有する地域であり、特に、海に突き出た「弁天島」から見る日本海の眺めは素晴らしいものがあります。これらの自然や環境等を守りながら観光する「エコツーリズム」も盛んです。

また、同国定公園内には、1983（昭和 58）年に日本女子オープン選手権の舞台にもなった、1960（昭和 35）年開場の名門・芦原ゴルフクラブがあります。

北潟湖には、コイ、フナ、ウナギなどが生息し、淡水釣りのメッカとして有名であり、毎年 12 月から翌年 3 月までは、寒ブナの「柴漬漁」が行われ、冬の風物詩となっています。平成 30 年には、カヌースプリント競技の好適地として、福井国体が開催されました。

「道の駅」の開業は、観光やビジネスなどの交流人口の増加や地域経済の活性化につながるが見込まれています。吉崎エリアが持つ「自然・景観」「歴史・文化」「食・健康」などの地域資源に光を当て、磨き上げを行い、新たな地域振興の拠点となる道の駅整備を進めます。

#### ① 吉崎御坊跡及び寺院

- 吉崎は、浄土真宗中興の祖・蓮如が北陸での布教の中心拠点に選んだ場所で、現在でも付近一帯は「蓮如の里」と呼称されています。
- 吉崎西別院、吉崎東別院、願慶寺、吉崎寺があります。
- 吉崎東別院、願慶寺、吉崎寺には、吉崎に伝わる伝説「嫁威（よめお

どし)肉付きの面」が伝えられているなど、各寺院の特色を楽しむことができます。

- 蓮如忌は、毎年4月23日から5月2日にかけて、京都東本願寺から蓮如上人の「御影(ごえい)」を迎えて、盛大な法要が行われます。御忌法要が行われる10日間は、市内外から多くの参拝者が訪れます。

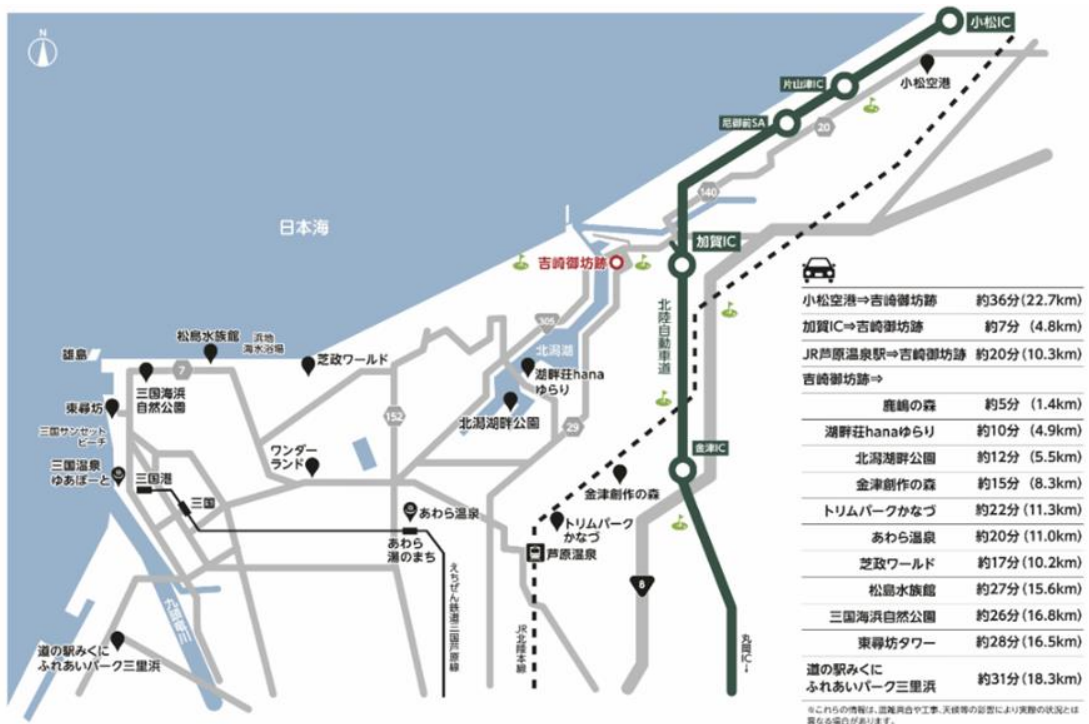
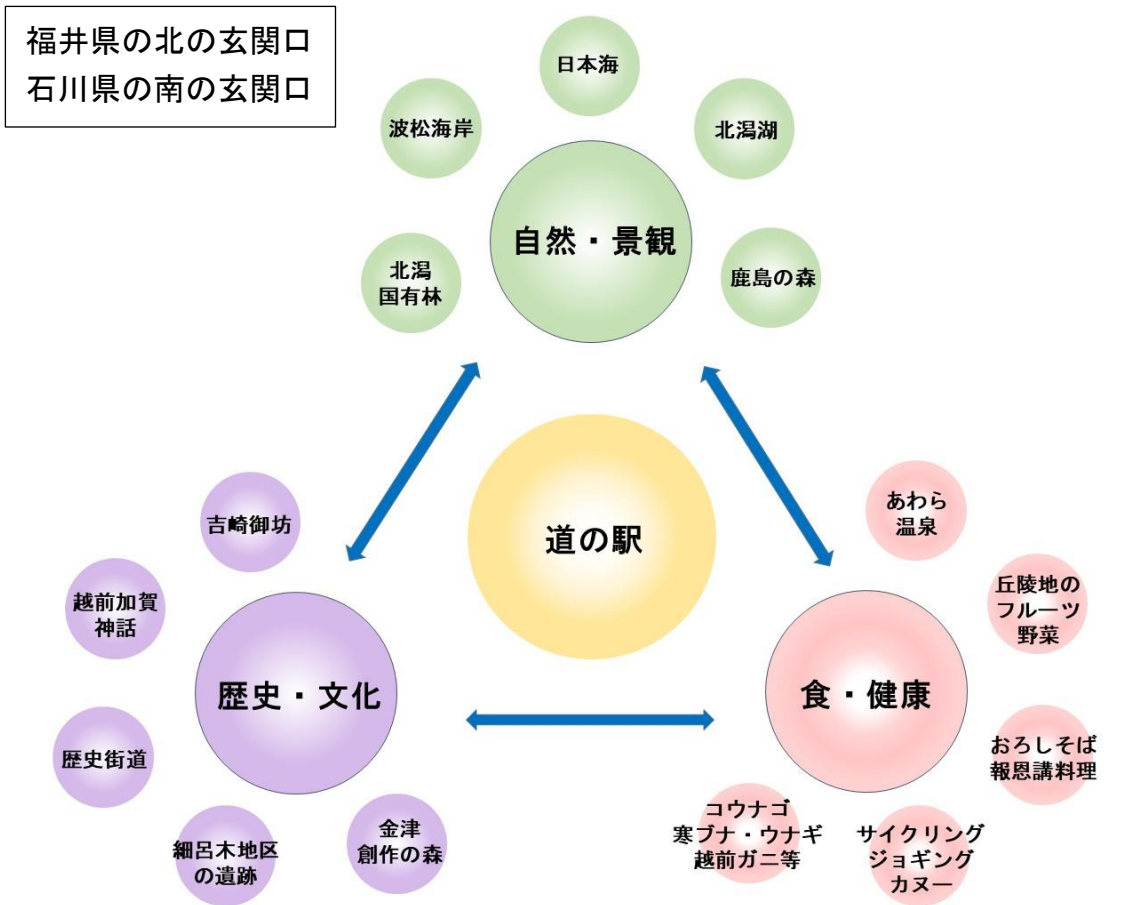
## ② 吉崎御坊蓮如上人記念館(一般財団法人本願寺文化興隆財団)

- 1998(平成10)年に一般財団法人本願寺文化興隆財団によって設立されました。蓮如上人の御名号や御文(御文章)などの貴重な文化財と史料を展示する「蓮如館」、総檜寝殿造の「鳳凰閣」、「七不思議堂(国登録有形文化財)」、「信の庭」、桃山様式の高廊下風庭見台「見玉楼」等からなり、蓮如上人の生涯と教え、吉崎の歴史や文化を深く学ぶことができます。
- 鳳凰閣の喫茶スペースでは、毎年「蓮如さんかるた大会」や「伝統芸能新世代コンクール」のほか、シンポジウム等が開催されています。
- 自然館では、北潟湖周辺の地学、自然や動植物を紹介しています。

## ③ 越前加賀県境の館

- あわら市と石川県加賀市の県境を跨いで建っている館で、周辺地域の歴史に関する展示を楽しむことができます。
- 館の西側には、国指定天然記念物である「鹿島の森」と雄大な「北潟湖」が広がっていて、館の正面の窓からは、これらの景色が1枚の絵のように美しく見ることができます。

## (2) 道の駅整備エリアの特徴





## 5 道の駅導入機能及び施設等

### 1 休憩機能

#### (1) 駐車場

- 国道 305 号や周辺道路の交通量、イベント時の来場者数を勘案し、誰もが止めやすい、ゆとりある駐車スペースを2カ所整備します。
- 安全確保のため、小型車と大型車が交錯しないように、可能な限り駐車スペースを分離するほか、利用者の安全を確保するため、歩行者の通行スペースを分離します。
- 「ハートフル対応型」の駐車マスについては、施設に近い位置に整備し、障害者等が主要な施設にアクセスできるよう計画します。また、悪天候でも移動が不便にならないよう雨除け等を完備します。



ゆとりある駐車スペースを整備  
(第1駐車場(吉崎観光センター前))



歩行者の通行スペースを確保  
(第2駐車場(蓮如上人記念館前))



ハートフル対応型駐車マスを整備  
(恐竜溪谷かつやま EV 充電スタンド)

#### ☀️【施設利用向上を促す工夫】

- ・ シャトルバスやレンタサイクルで市内各所を観光できるよう、長時間駐車可能な駐車場を整備します。

#### 第1駐車場

施設規模	約 2,200 m <sup>2</sup>	小型	35 台 (19 台)
		大型	5 台 (5 台)
		ハートフル	2 台 (2 台)
		自動二輪	8 台 (8 台)
		EV 充電	2 カ所 ※ 他予備 1 カ所

※ ( ) 内は道路管理者整備分

## 第2 駐車場【鳳凰閣前駐車場】

施設規模	約 1,600 m <sup>2</sup>	小型	20 台 (一)
		大型	3 台 (一)
		ハートフル	1 台 (一)
		コミュニティバス停留所	1 カ所

※ ( ) 内は道路管理者整備分

※ 各駐車場の規模は、道路通行車両の立ち寄り休憩利用として必要な台数（道路管理者整備分）と、地域振興施設等の利用として必要な台数（地域振興施設分）に分けて算出

※ 道路管理者整備分の駐車場の規模については、国土交通省道路局国道・防災課 事務連絡（2012(平成 24)年 10 月 29 日）に基づき、日本道路公団設計要領を準用して算出

### 駐車ます数の内訳

	道の駅全体		
		道路管理者整備分	地域振興施設分
小型車 駐車ます数	55	19	36
大型車 駐車ます数	8	5	3
ハートフル 駐車ます数	3	2	1

### 【駐車ます数算定に係る設計交通量の設定】

国道 305 号 2,466 台/日

主要地方道 福井金津線 3,642 台/日

合計 6,108 台/日

設計交通量 6,108 台×1.4（休日サービス係数）≒ 8,550 台/日

年平均日交通量 Q (台/日)	サービス係数
0 < Q ≤ 25,000	1.40
25,000 < Q ≤ 50,000	1.65 - Q × 10 <sup>-5</sup>
50,000 < Q	1.15

※ 前面の国道 305 号及び合流する主要地方道福井金津線の両路線の交通量（2015(平成 27)年度道路交通センサス値）を考慮

(車種別内訳)

小型車 : 5,330 台 × 1.4 ≒ 7,460 台/日

大型バス : 99 台 × 1.4 ≒ 140 台/日

大型貨物車 : 679 台 × 1.4 ≒ 950 台/日

※ 大型バス及び大型貨物車の交通量は、2015（平成 27）年度道路交通センサスに示される大型車台数をもとに、2005（平成 17）年度道路交通センサスを踏まえたバス・普通貨物車の車種別割合を乗じて算出

### 【道の駅全体として必要な駐車ます数】

(駐車ます数)

= (設計交通量) × (立寄率) × (ラッシュ率) / (回転率)

※ 回転率 : (60 分) / (平均駐車時間 (分))

施設種類	車種	立寄率	ラッシュ率	平均駐車時間(分)
サービスエリア	小型車	0.175	0.10	25
	大型バス	0.25	0.25	20
	大型貨物車	0.125	0.075	30

小型車駐車ます数

7,460 台/日 × 0.175 × 0.10 / (60 分 / 25 分) ≒ 55 台

大型バス駐車ます数

140 台/日 × 0.25 × 0.25 / (60 分 / 20 分) ≒ 3 台

大型貨物車ます数

950 台/日 × 0.125 × 0.075 / (60 分 / 30 分) ≒ 5 台

障がい者用駐車ます数 (50 台以上) ⇒ 2 台

妊婦用駐車ます数 ⇒ 1 台

以上により、道の駅全体として必要な駐車ます数は以下のとおりとなります。

小型車駐車ます数 55 台分

大型車 (大型バス+大型貨物車) 駐車ます数 8 台分

ハートフル駐車ます数 3 台分



### 【道路管理者整備分の駐車ます数】

(駐車ます数)

$$= (\text{設計交通量}) \times (\text{立寄率}) \times (\text{ラッシュ率}) / (\text{回転率})$$

$$\text{※ 回転率} : (60 \text{ 分}) / (\text{平均駐車時間 (分)})$$

施設種類	車種	立寄率	ラッシュ率	平均駐車時間(分)
パーキングエリア	小型車	0.10	0.10	15
	大型バス	0.10	0.25	15
	大型貨物車	0.125	0.10	20

小型車駐車ます数

$$7,460 \text{ 台/日} \times 0.10 \times 0.10 / (60 \text{ 分} / 15 \text{ 分}) \cong 19 \text{ 台}$$

大型バス駐車ます数

$$140 \text{ 台/日} \times 0.10 \times 0.25 / (60 \text{ 分} / 15 \text{ 分}) \cong 1 \text{ 台}$$

大型貨物車ます数

$$950 \text{ 台/日} \times 0.125 \times 0.10 / (60 \text{ 分} / 20 \text{ 分}) \cong 4 \text{ 台}$$

障がい者用駐車ます数 (50 台未満)

⇒ 1 台

妊婦用駐車ます数

⇒ 1 台

以上により、道路管理者が整備すべき駐車ます数は以下のとおりとなります。

小型車駐車ます数	19 台分
大型車 (大型バス+大型貨物車) 駐車ます数	5 台分
ハートフル駐車ます数	2 台分

### 【地域振興施設分の駐車ます数】

地域振興施設分の駐車ます数は、以下のとおりとなります。

小型車駐車ます数	36 台分
大型車 (大型バス+大型貨物車) 駐車ます数	3 台分
ハートフル駐車ます数	1 台分

## (2) トイレ

- 道路利用者等が24時間利用できるトイレを整備します。
- 明るく清潔で、夜間でも利用者が不安にならない施設を整備します。
- 高齢者・障がい者等の円滑な移動等に配慮した多機能トイレを整備します。
- 車いす利用者や乳幼児を持つ子育て家族等、誰もが安心して利用できるよう配慮します。
- 節水、省電力による環境配慮型施設とします。



24時間利用できるトイレを整備  
(藤樹の里あどがわトイレ看板)



明るく清潔なトイレを整備  
(恐竜溪谷かつやまトイレ)

### 第1駐車場併設

施設規模	男子トイレ 約40㎡	小便器：4器（子ども用1器含む） 大便器：3器（大型ブース1器含む）
	女子トイレ 約55㎡	8器 子ども用小便器：1器
	多機能 トイレ他 約25㎡	1器 (掃除用保管庫含む)

### 吉崎汀公園内（既設）

施設規模	男子トイレ	小便器：4器 大便器：1器
	女子トイレ	5器（多機能1器含む）

※ 女子トイレを含む大便器は和式から洋式に改修を予定

### 第2駐車場隣接（既設）

施設規模	男子トイレ	小便器：4器 大便器：2器
	女子トイレ	7器（多機能1器含む）

※ 道の駅全体として必要なトイレの規模は、NEXCO設計要領第六集建築施設編（令和元年7月）などに基づき算出

男子トイレ 小便器：4器 大便器：3器  
女子トイレ 13器

### (3) ベビーコーナー（おむつ交換・調乳室、授乳室）

- 乳幼児を持つ子育て家族が、24時間おむつ交換や調乳、授乳できるスペースを整備します。
- おむつ交換・調乳室と授乳室を分けることによって、男女とも気兼ねすることなく利用できるようにします。

施設規模	約 10 m <sup>2</sup>	おむつ交換・調乳室(6 m <sup>2</sup> )、授乳室(4 m <sup>2</sup> )
------	---------------------	---

### (4) 休憩スペース

- 飲食施設や観光案内施設、屋外空間（オープンテラス空間）に隣接し、道路利用者等が休憩しながら北潟湖の良好な自然景観を眺めることができる休憩所を整備します。



休憩施設を整備  
(若狭おばま休憩スペース)



情報提供施設を整備  
(藤樹の里あどがわ情報コーナー)

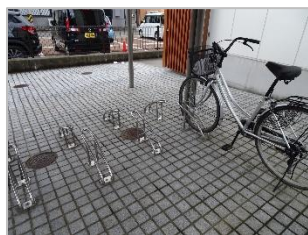
施設規模	約 35 m <sup>2</sup>	-
------	---------------------	---

#### 💡【施設利用向上を促す工夫】

- ・ 飲食施設と一体利用可能な整備を行います。

(5) 関連施設

- 駐輪場やサイクルラックを設置します。



**駐輪場を設置**  
(金津本陣IKOSSA)



**サイクルラックを設置**  
(湖北みずどりステーションサイクルラック)

- サイクリング中の休憩拠点となる「自転車の駅」として、利用者に空気入れや工具などを無料で提供し、利便性の向上を図ります。



**自転車の駅ロゴマーク**  
(細呂木ふれあいセンター「らくーざ」)



**ロゴマークを出入口に表示**  
(禪の里出入口)

施設規模	約 25 ㎡	駐輪場 10 台
		サイクルラック (ロードバイク用) 12 台

- 更衣室やシャワールームなど、ドライバーだけでなく、サイクリングロード等の利用者がいつでも休憩できる環境を整備します。



**更衣室を整備**  
(恐竜渓谷かつやま更衣室)



**シャワールームを整備**  
(あわら市カヌー艇庫シャワー室)

施設規模	約 20 ㎡	更衣室・シャワールーム 男女各 1 室
------	--------	---------------------

## 2 情報提供機能

### (1) 情報発信施設

- 道路利用者が必要とする道路や交通情報、天気情報、冬の雪道情報、災害情報、市内の駐車場情報等の情報をリアルタイムに提供し、ベンチ等の休憩機能も備えながら 24 時間利用できる施設を整備します。
- 道路情報提供施設として、掲示板、道路情報モニター、W i - F i 機能等を整備します。



道路情報モニターを整備2  
(恐竜溪谷かつやま情報発信施設)



掲示板を整備  
(恐竜溪谷かつやま情報発信施設)

施設規模	約 35 m <sup>2</sup>	-
------	---------------------	---



#### 【施設利用向上を促す工夫】

- ・ 利用者の動線を考慮した設備配置、わかりやすい情報提供などを行います。

## 3 地域振興機能

### (1) 吉崎汀公園交流広場

- 吉崎汀公園を、風光明媚な湖畔の風景で疲れを癒したり、地域住民が交流イベントなどを行うことができる広場として活用します。
- 既存のトイレ施設の一部改修や樹木の間引きなど、公園のリニューアルを行います。
- 護岸の改修を行うとともに、景観を楽しむことのできるベンチを設置するなど、公園の機能を充実させます。
- 隣接する吉崎御坊蓮如上人記念館敷地との間のブロック塀を撤去し、相互に往来ができるようにします。



吉崎汀公園を活用  
(吉崎汀公園)

## (2) 特産品等販売施設

坂井市や加賀市と連携し「吉崎楽市楽座」として整備します。

### ① 農産物直売所

- 地産地消活動の中心的役割を担う道の駅において、坂井北部丘陵地等で収穫された新鮮な農産物の良さや安全性を発信するとともに、生産振興を図るため、ファーマーズマーケットを整備します。



ファーマーズマーケットを整備1  
(禅の里農産物販売所)



ファーマーズマーケットを整備2  
(浅井三姉妹の郷農産物販売所)



ファーマーズマーケットを整備3  
(湖北みずどりステーション農産物販売所)

- 生産者の顔が見える売り場づくりにより、新鮮な農産物の良さや安全性を消費者に届けます。



生産者の顔が見える売り場づくり  
(若狭おばま水産物販売所)

- スイカやメロン、梨、柿、サツマイモなど、四季折々の果物や野菜などの特産品を販売します。



特産品を販売  
(湖北みずどりステーション加工品販売所)

- 商品の購入やイベントを通じて、生産者と消費者の交流が図れるよう運営の工夫を行い、やりがいや生きがいを持ってさまざまな活動が展開される地域づくりに寄与します。

施設規模	約 150 m <sup>2</sup>	-
------	----------------------	---

#### 💡【施設利用向上を促す工夫】

- ・ 農林産物の生産者の顔が見えるとともに、生産過程などをPRしながら、農業体験等の案内を行います。



## ② 土産物販売所

- 市内外の選りすぐった特産品（菓子類・酒類・伝統工芸品等）等を販売する施設を整備します。



特産品販売施設を整備1  
(若狭おばま特産品販売所)



特産品販売施設を整備2  
(塩津海道あちかまの里特産品販売所)

- 金津創作の森と連携し、入居作家等の作品を展示販売します。



金津創作の森と連携  
(金津創作の森ショップ)



金津創作の森の作品を展示販売  
(金津創作の森ガラス工房作品)

- 販売している菓子の店舗や工芸品の工房を紹介するなど、市内の名産品スポットをPRします。

施設規模	約 150 m <sup>2</sup>	-
------	----------------------	---

### 💡【施設利用向上を促す工夫】

- ・ 市内の各地域のPRをすることにより、観光客を市内へ誘客することができるような工夫を凝らします。

### (3) 飲食施設

- 気軽に利用できるフードコートを整備します。



フードコートを整備1  
(若狭おばまフードコート)



フードコートを整備2  
(恐竜渓谷かつやま飲食スペース)



フードコートを整備3  
(恐竜渓谷かつやま飲食スペース)

- コーヒー等の飲み物のほか、地元の食材等を利用した特徴のあるスイーツを提供します。
- 福井のソウルフードであるおろしそばやソースカツ丼などを提供します。
- 地元で獲れる小女子などの水産品等を用いたメニューや報恩講料理からヒントを得たアレンジ料理などを開発します。

施設規模	約 40 m <sup>2</sup>	最大同時利用 25 人を想定
------	---------------------	----------------

#### 💡【施設利用向上を促す工夫】

- ・天候の良い日は屋外空間（オープンテラス空間）と一体的な利用を行います。
- ・屋内では休憩スペースと一体利用可能な整備を行います。
- ・地元食材による地産地消を促進し、あわら市の魅力を訴求し、農村体験を促進します。



## 4 周遊観光促進機能

### (1) 観光案内施設

#### ① 観光情報発信コーナー

- 観光地や祭、イベントなどを紹介する各種パンフレット等を配架するとともに、市内はもとより嶺北各地や加賀市等の情報を提供する観光案内コーナーを整備します。



観光案内コーナーを整備1  
(若狭おばま観光情報発信コーナー)



観光案内コーナーを整備2  
(浅井三姉妹の郷観光情報発信コーナー)

- 市内外の観光地を映像で紹介するデジタルサイネージを整備します。

施設規模	約 35 m <sup>2</sup>	----
------	---------------------	------

#### ② まちあるきツアー案内コーナー

- 一般社団法人蓮如の里吉崎が、御山や寺院巡り、北瀉湖水上散策、弁天島を中心とした自然散策等を体験メニュー化したまちあるきイベントを開催します。



まちあるきイベントを開催  
(まちあるきツアー案内)

- 吉崎ガイドクラブが、蓮如の里の歴史・文化、食などの魅力を紹介します。



吉崎ガイドクラブによる案内  
(吉崎御坊跡)

施設規模	約 35 m <sup>2</sup>	ガイド用控え室約 10 m <sup>2</sup> を含む
------	---------------------	--------------------------------

#### 💡【施設利用向上を促す工夫】

- ・タイムリーなイベント情報等を提供するとともに、移動手段の手配や施設予約等をサポートします。

## (2) シャトルバス等停留所

- 市内への回遊性を促進するため、バスの停留所を整備します。
- あわら北部周遊バス「あわらぐるっとバス」と加賀周遊バス「キャン・バス」の停留所を同じ場所とし、利便性の向上と周辺の観光地間の周遊性を高めます。



バスの停留所を整備  
(あわらぐるっとバス)

施設規模	1カ所	第2駐車場内にバス停留所を設置予定
------	-----	-------------------

## (3) レンタサイクル

- 道の駅周辺等の観光スポットを楽しんでもらうため、レンタル電動アシスト自転車を配置します。
- レンタサイクルの利用促進を図るため、サイクリングロードや観光回遊ルートなどを記載した観光マップを作成します。



レンタル自転車を配置1  
(細呂木ふれあいセンター「らくーざ」)



レンタル自転車を配置2  
(細呂木ふれあいセンター「らくーざ」)



レンタル自転車を配置3  
(藤樹の里あどがわ)

施設規模	約 15 m <sup>2</sup>	レンタサイクル台数：10 台程度
	約 30 m <sup>2</sup>	レンタサイクル等格納庫

※ 開設時は5台程度とし、ニーズに応じて追加

## 5 管理機能

### (1) 事務室・会議室・従業員用トイレ

- 案内窓口を有した事務室は、利用者の対応が行いやすいよう利用者出入口付近に配置します。
- 会議室は、事務室から利用しやすい位置に配置します。
- 従業員用の休憩所とトイレを確保します。

施設規模	約 20 m <sup>2</sup>	事務室：管理職員6名程度の執務空間を想定
	約 20 m <sup>2</sup>	会議室
	約 15 m <sup>2</sup>	従業員用休憩所、トイレ

## (2) バックヤード

- 飲食施設のバックヤードは、搬出入がしやすく飲食施設（フードコート）に近接して配置します。
- 特産物等販売施設のバックヤードは、搬出入がしやすく特産物等販売施設に近接して配置します。また、関係者が使いやすいよう荷捌スペースなどを設けます。
- 一般の施設利用者との動線を明確に分離します。

施設規模	約 40 m <sup>2</sup>	飲食施設バックヤード：厨房などを想定
	約 135 m <sup>2</sup>	特産物等販売施設バックヤード 荷捌スペースなどを設けます

## 6 機能強化施設

吉崎汀公園に隣接する蓮如上人記念館では、集客効果を上げるため、施設の管理運営を行う一般財団法人本願寺文化興隆財団が、散策路や施設の整備、改修のほか、道の駅との差別化を図ったうえでの商品の開発、飲食物の提供を検討しています。

また、蓮如上人記念館の駐車場の一部を道の駅の第2駐車場として活用し、道の駅と蓮如上人記念館の各施設との間に回遊性を持たせることで、利用者には一体的な施設として利用させることができます。

このように、お互いを補完することで、相乗効果が生まれ、利用者の増も期待できるものとして、蓮如上人記念館を道の駅「蓮如の里あわら」の機能を強化する施設と位置づけます。

### (1) 吉崎御坊蓮如上人記念館（一般財団法人本願寺文化興隆財団）

#### ① 鳳凰閣

- メロン、とみつ金時、越のルビーなど特産フルーツや野菜、北潟湖や日本海の家産物などを用い、「蓮如レガシー」のストーリーを付加した飲食物、土産物を首都圏著名料理人（店舗）プロデュースで開発します。これを市内外に広く発信し、女性やカップル、県外からの来訪者に楽しんでもらいます。



鳳凰閣 外観

## ② 蓮如館

- 蓮如上人の資料や、漫画界の巨匠・永井豪氏、里中満智子氏等が描いた「蓮如さんかるた」の絵札の原画を展示します。
- 市民を対象とした、蓮如さんかるた大会等のイベントを開催します。



蓮如館 外観

## ③ 信の庭

- 北潟湖や鹿島の森、日本海を望みながら美しい庭園を散策することができます。
- 吉崎汀公園と結ぶことで、湖岸散策路としての回遊性を高めます。



信の庭 全景

## ④ 七不思議堂

- 1881（明治 14）年に建てられた貴重な古民家として、2002（平成 24）年に国の有形文化財（建造物）に登録されました。
- 建物内には、蓮如上人にまつわる吉崎の民話「吉崎七不思議」が展示されています。



七不思議堂 外観

## ⑤ 自然館

- 北潟湖周辺の地学、自然や動植物を紹介し、児童への環境教育を推進します。



自然館 外観



## 6

## 近隣施設等

### 1 あわら市

#### (1) あわら温泉

- 1883（明治 16）年に農夫が水田の灌漑用の井戸を掘ったところ偶然にも生暖かい塩味の温泉が湧き出したことが始まりです。現在は 74 本の泉源があり旅館ごとに温泉の泉質や効能が異なります。



あわら温泉

- 温泉街の周辺は田園に囲まれ、のんびりとした景色が特徴で多くの文人墨客に愛されてきた温泉街です。
- 現在、約 25 の宿泊施設があり、年間約 80 万人の宿泊客が訪れる、福井県最大の宿泊地となっています。
- 旅館ごとに趣向を凝らした豪華な庭園や、日本海の新鮮な海の幸、人の幸あふれるおもてなしにより、「関西の奥座敷」と呼ばれるなど、多くのお客様に愛されています。

#### (2) 芦原ゴルフクラブほか市内に点在するゴルフ場

- あわら市内には 4 つのゴルフ場が点在しています。
- 名門・芦原ゴルフクラブは、打ち寄せる日本海の波、静かに光る北潟湖、遠望する白山連峰など、美しい自然にあふれたゴルフクラブです。



芦原ゴルフクラブ

#### (3) 北潟湖畔公園・サイクリングロード

- 北潟湖は福井県の北端部に位置する周囲 14km の汽水湖で環境省の重要湿地 500 にも選定されており、多くの野鳥観察ができるほか、天然ウナギや寒ブナが取れます。



北潟湖畔公園

- 北潟湖のシンボルとなっている真っ赤な斜張橋の「アイリスブリッジ」や、北潟湖畔公園、北潟湖畔花菖蒲園などが整備されています。



アイリスブリッジ

- アイリスブリッジを渡る、一周 3.7 kmのサイクリングロードをレンタサイクルで走ることができるほか、湖上の足こぎボートなど、家族で楽しめるアクティビティが充実しています。



足こぎボート

#### (4) 波松海岸

- 波松海岸は、キス釣りやサーフィン、観光地引網が楽しめるほか、休校となった波松小学校舎には、「なみまちC A F E」があり、地元のメロンやナシなどを使ったスイーツや食事が楽しめます。



波松海岸

- 波松流木きらめきフェスタなどのイベントでは、伝承料理である「くじら汁」の試食販売のほか、流木や貝殻、シーグラスを使った流木アートなどのワークショップ体験などが楽しめます。

#### (5) 細呂木地区の遺跡群

- 細呂木関所跡が残されている旧北陸道の要衝で、のこぎり坂や旧吉崎道の切通しなど貴重な古道として多くのファンが訪れています。



吉崎道

- 北陸最古の古代たたら製鉄遺跡をはじめ、樹齢 900 年以上といわれる衣かけの大杉、最古の越前狛犬、近世の川口城址や神宮寺城跡などの遺跡が多く点在しています。

## (6) 金津創作の森

- 森に囲まれたアートスペース「金津創作の森」。広大な森の中にはものづくりの作家が住んでおり、人と自然、アートが交差する施設です。
- 金津創作の森の中心的な建物「金津創作の森美術館アートコア」では、様々な企画展が開催されます。広大な敷地内には、「創作工房」や「ガラス工房」も整備されており、手軽に陶芸やガラス細工などが楽しめます。



金津創作の森

## 2 坂井市

### (1) 東尋坊

- 波の浸食によって荒々しくカットされた断崖絶壁が続く景勝地。
- 「輝石安山岩の柱状節理」という、地質学的にも珍しい奇岩は世界にも東尋坊を含め3カ所しかないといわれ、国の天然記念物に指定されています。
- 周辺には、新鮮な海産物や野菜を使った食事処や、ご当地モノが満載の土産処もあります。

### (2) 越前松島水族館

- 1959（昭和34）年開館で、景勝地東尋坊にほど近く、施設全体が越前加賀海岸国定公園の中にあります。
- 「みて、ふれて、楽しく学べる」がテーマの体験・体感型水族館です。大ジャンプを見せてくれるイルカショーや、ペンギンの可愛らしい散歩が人気です。

### (3) 芝政ワールド

- 日本海を望む大規模なテーマパークで、遊園地、プール、パットゴルフ、キャンプ場、グラウンドゴルフ、キッズパラダイスや謎解き・脱出、芝生広場など沢山のアトラクションと共に、子供も大人も楽しむことができます。
- 夏季営業のプールは、落差・長さ共にギネス記録に認定されたことのある浮き輪ウォータースライダーが人気です。

### 3 石川県加賀市

#### (1) 加賀フルーツランド

- いちごやさくらんぼ、ブルーベリー、ぶどう、りんご等、フルーツ狩を体験することができます。自然のまま、市場に並ぶ前のフルーツの姿を「見て・触って・収穫する」四季を感じながら、さまざまなフルーツとふれ合うことができます。
- 施設内では、バーベキューやパークゴルフなども楽しめます。

#### (2) 月うさぎの里

- 園内に沢山のうさぎが飼育されており、無料で触れ合うことができます。
- うさぎと遊ぶ、うさぎを見る、2000点以上のうさぎグッズや、石川県の特産品も買うことができます。

### 4 自然を感じて遊べるアクティビティ

#### (1) サイクリング・ジョギングロードの整備

- 球技のような激しいスポーツと比べ体への負担の少ないサイクリングやジョギング、ウォーキングにより、健康増進を推進します。



サイクリングロードの整備  
(レンタサイクル)

- 北潟湖周遊サイクリングロード「北潟湖ハミングロード」と石川県加賀市の「加賀海岸サイクリングロード」の接続を進めます。

#### (2) ウォータースポーツやフィッシング

- あわら市では、カヌーポロ競技が盛んです。毎年開催される「あわらカップカヌーポロ大会」は、現在では、日本で最大規模のカヌーポロ大会となっています。また、初心者やカヌーポロは苦手という方たちには、北潟湖を利用したカヌーツーリングなどが行われています。



カヌーポロ大会

- 波松海岸は、磯の香に包まれ、松の緑と白い砂浜がどこまでも続く美しい海岸で、キス釣りのメッカとして有名です。また、波のある日はサーフィンを楽しむたくさんの方でにぎわいます。



### (3) エコグリーンツーリズム

- 海岸線にある北潟国有林などには、希少な植物が生息していることから、地元の自然保護団体などが開催する、自然ウォッチングや、ウォーキングイベントなどを通して、地域の貴重な自然や環境の保全について楽しく学ぶことができます。



ウォーキングイベント等開催  
(エコグリーンツーリズム)

### 5 坂井北部丘陵地の四季折々のフルーツ等

- 坂井北部丘陵地では、四季を通じてさまざまなフルーツなどの収穫体験や購入を楽しむことができます。



坂井北部丘陵地

- メロンは、種類が豊富で、プリンス、マルセイユ、アンデス、アムス、アールス、ペルルなど 10 種類以上あります。赤肉、青肉と形も味も様々で、食べ比べも楽しめます。
- 越前柿は、とねわせ ひらたねなし 刀根早生や平核無という種類の渋柿で、種が無く四角い形状が特徴です。渋抜きが行われた越前柿は種もなくて甘くて大変好評です。
- 芦原梨は、波松地区の特産で、幸水、豊水、二十世紀、新興など種類も豊富で県内外に多くのファンを有しています。
- とみつ金時は、甘みが強く、しっとりホクホクした味わいが特徴で、全国的に知名度が高まっています。



収穫物:メロン



収穫物:柿



梨の収穫体験



収穫物:梨



収穫物:スイカ



収穫物:越のルビー



収穫物:ブドウ



収穫物:とみつ金時

### 坂井北部丘陵地のフルーツ等

収穫体験	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
いちご		—————										
ブルーベリー							—————					
越のルビー						—————						
ぶどう							—————					
なし								—————				
いちじく								—————				
くり									—————			
買う	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
メロン						—————			—————			
すいか						—————						
越前柿										—————		
とみつ金時	—————								—————			

## 7 ゾーニング計画

### 1 整備予定地の現状

計画地は、以下（航空写真）のとおり、国道 305 号の両側に位置します。北側には越前加賀県境の館、南側は吉崎御坊跡、北西部には北潟湖が広がっています。

#### 設置位置周辺の現況把握



## 2 ゾーニング・動線計画

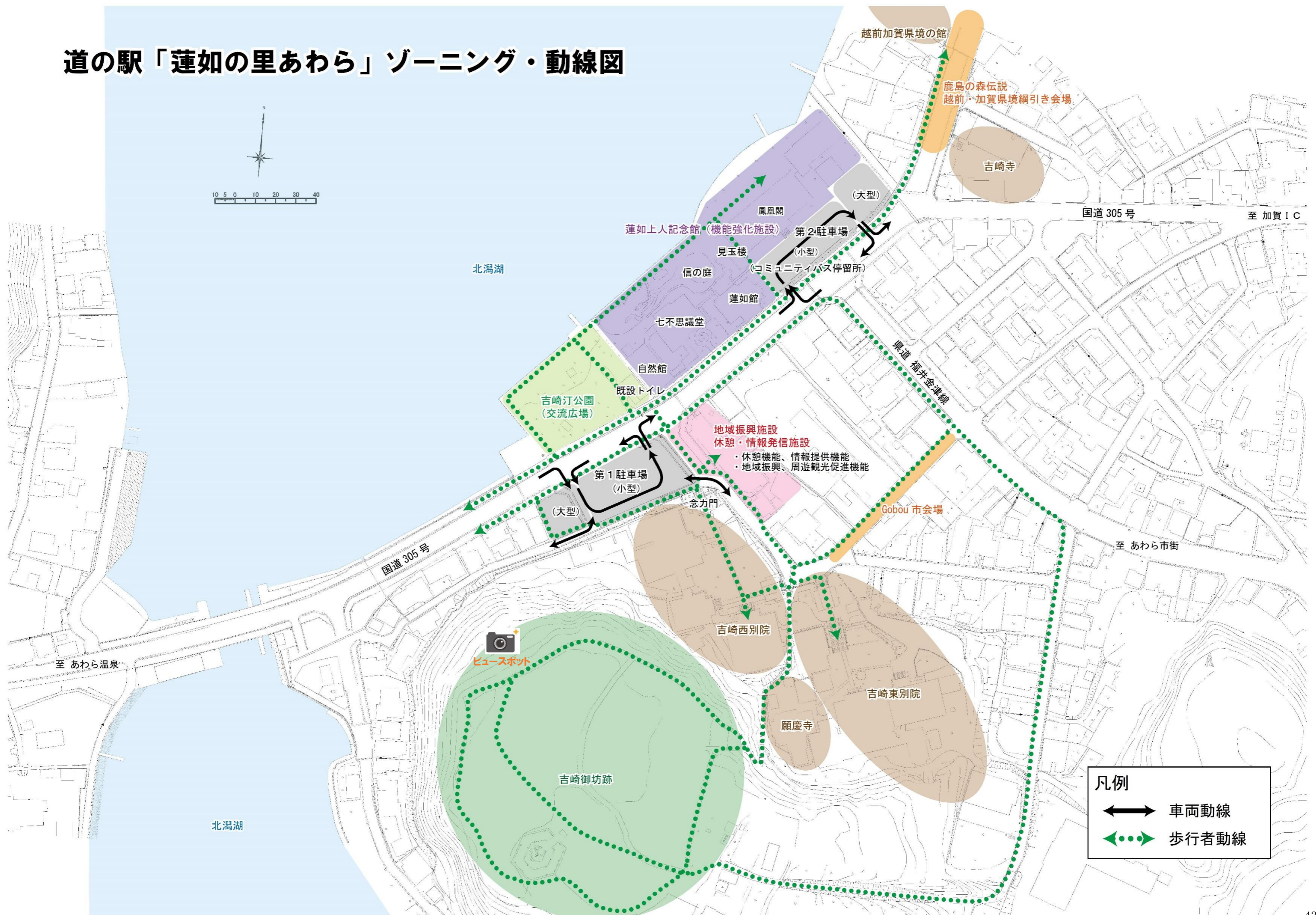
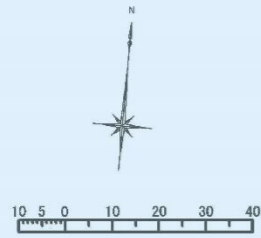
道の駅及び吉崎汀公園、蓮如上人記念館（機能強化施設）への車両及び歩行者の動線を考慮し、ゾーニングを計画します。

### 動線の考え方

対象		動線の考え方
車両動線	施設外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道 305 号から直接アクセスする。</li> <li>・ 駐車場への出入りに際し、入口と出口をそれぞれ分離する。</li> <li>・ 第 1 駐車場付近の既存市道は、交通量が極めて限定的であることから、第 1 駐車場内を経由しての出入りとする。</li> </ul>
	施設内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小型車、大型車が交差しないような車両動線を計画する。</li> </ul>
歩行者動線		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐車場内から各施設へ安全に出入りできるよう歩行空間を明確にする。</li> <li>・ 周辺地域住民等、歩行者でも利用しやすいように、国道 305 号から歩いてアクセスできるようにする。</li> <li>・ 地域振興施設、休憩・情報発信施設の前面には、その敷地内も活用しながら吉崎西別院や吉崎東別院、願慶寺、吉崎御坊跡等に至る歩行空間を確保する。</li> <li>・ 国道 305 号の横断箇所は、建物施設前に設ける歩道との連続性を考慮し、横断歩道（歩行者専用信号機）の位置を変更する。</li> <li>・ 吉崎汀公園と蓮如上人記念館の間を隔てるブロック塀を撤去し、相互に往来が可能な歩行者動線を確保する。</li> <li>・ 歩行者を施設や近隣の観光スポットへ誘導する案内板や標識を設置する。</li> </ul>



# 道の駅「蓮如の里あわら」ゾーニング・動線図

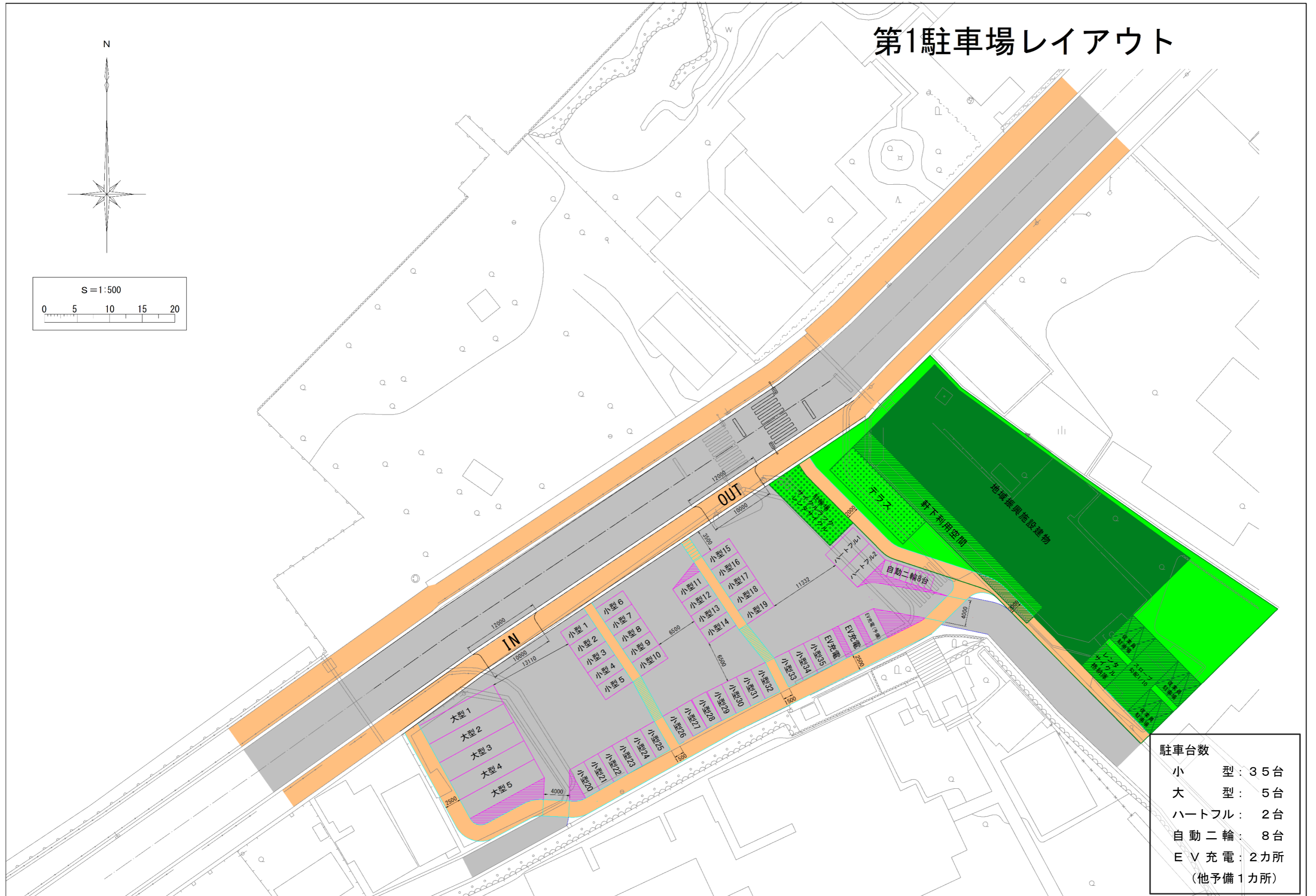
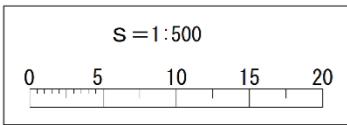
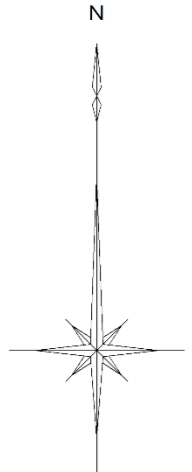




## 8 施設配置計画

施設配置の基本的な考え方及びゾーニング計画、動線計画を踏まえた施設配置計画図を次ページ以降に示します。

# 第1駐車場レイアウト

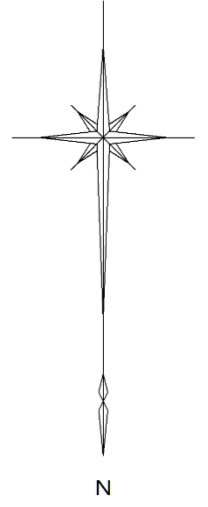
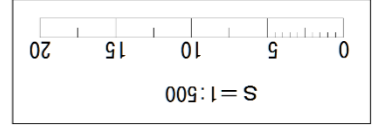
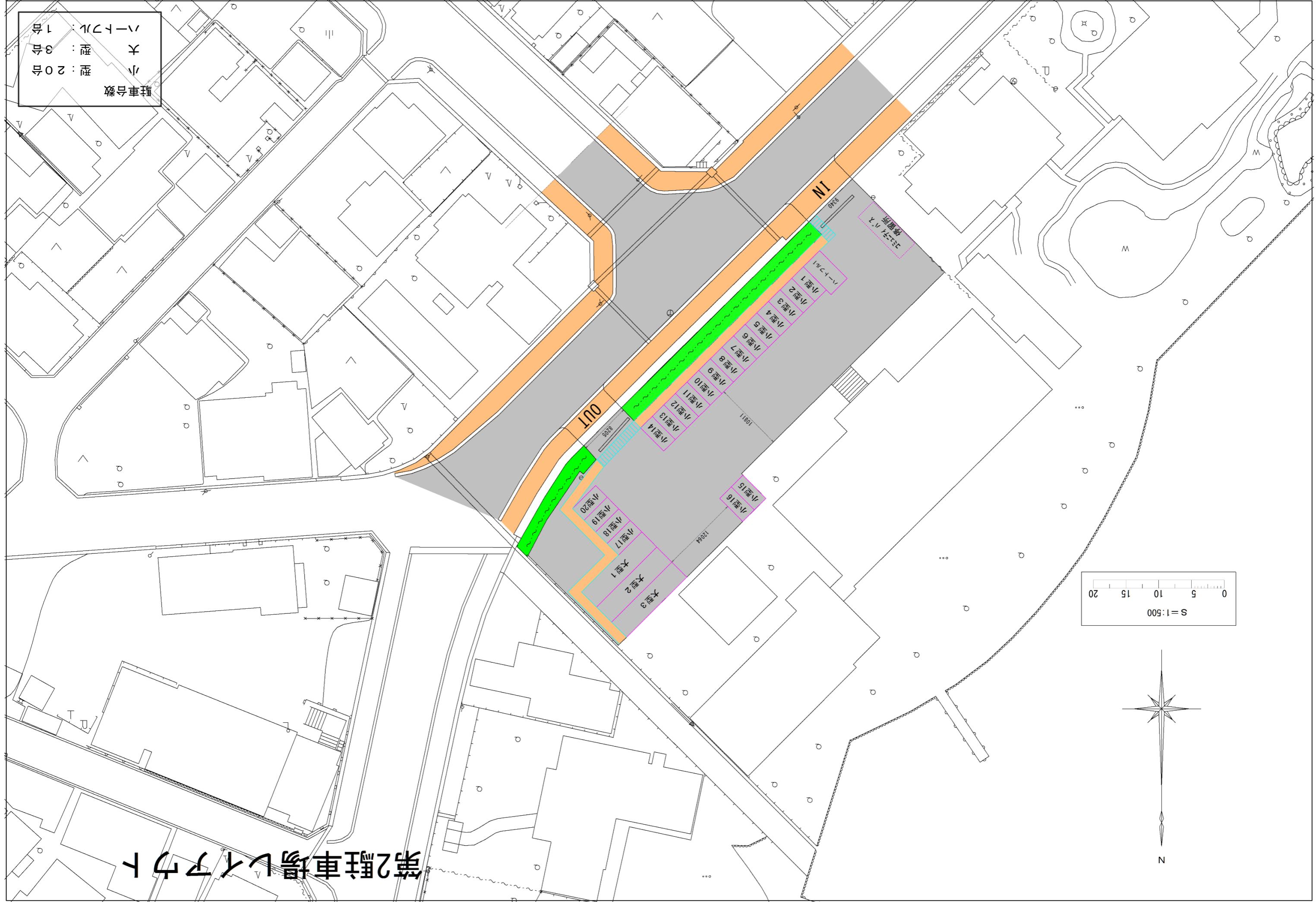


駐車台数	
小	型：35台
大	型：5台
ハートフル	：2台
自動二輪	：8台
EV充電	：2カ所
(他予備1カ所)	



# 第2駐車場レイアウト

駐車台数  
 小 型 : 20台  
 大 型 : 3台  
 ハートフル : 1台





# 休憩機能・情報提供機能・地域振興機能・周遊観光促進機能施設 ~ 施設レイアウト ~

## 検討条件

- ① 敷地： 吉崎観光センター立地区域（隣接空き家を含む）（約 1,750 m<sup>2</sup>）
- ② 容積率：200%、建ぺい率：60%(70%)\*（都市計画区域内、用途地域外、農村集落環境保全ゾーン）  
\*建築基準法 53 条 3 項及び同法施行細則 22 条（角地緩和）

## 事業概要

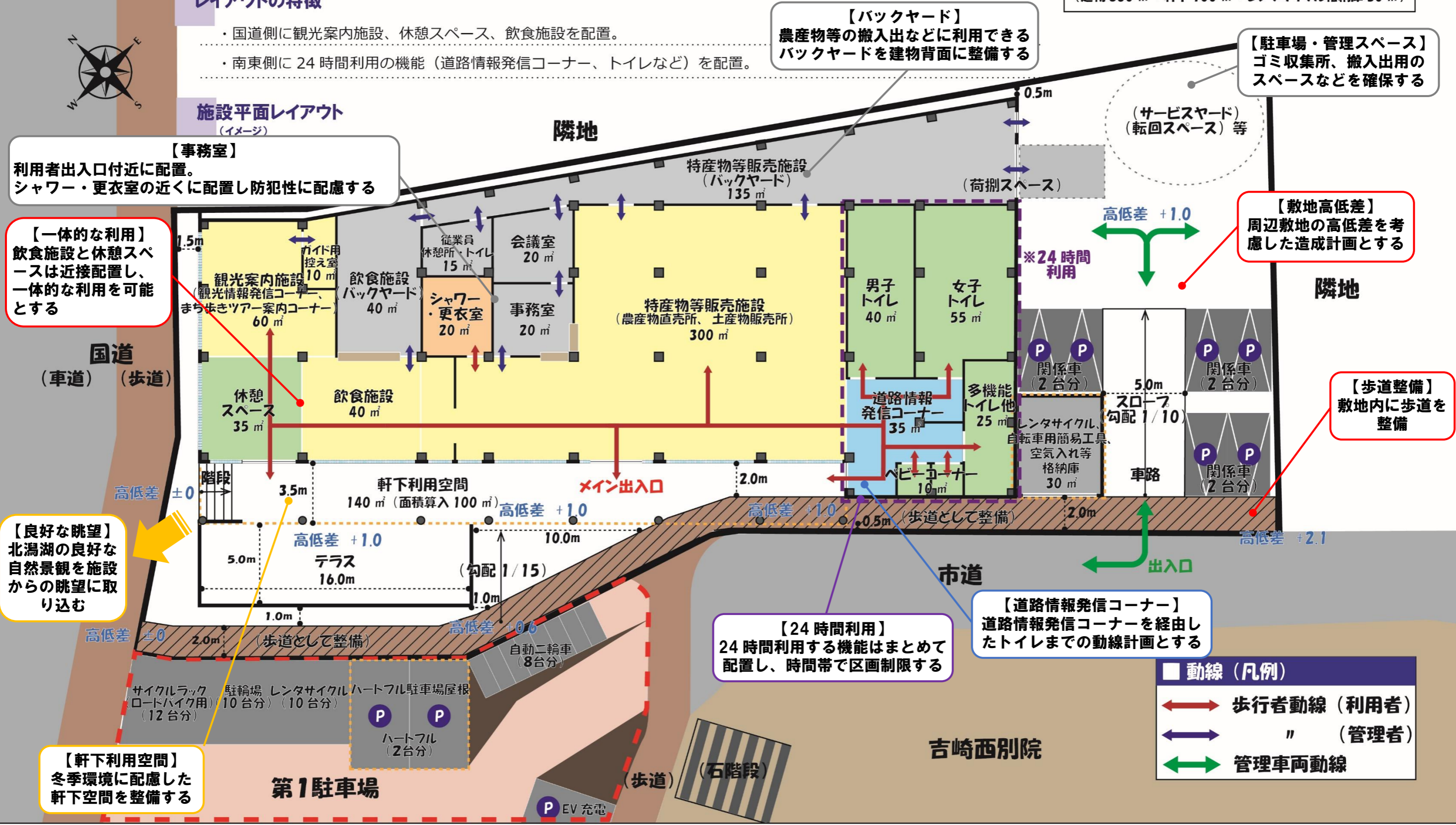
**計画敷地**： 約 1,750 m<sup>2</sup>  
**建築面積**： 約 990 m<sup>2</sup>  
（建物 860 m<sup>2</sup> + 軒下 100 m<sup>2</sup> + レンタサイクル格納庫 30 m<sup>2</sup>）

## レイアウトの特徴

- ・国道側に観光案内施設、休憩スペース、飲食施設を配置。
- ・南東側に 24 時間利用の機能（道路情報発信コーナー、トイレなど）を配置。

## 施設平面レイアウト

（イメージ）



**【事務室】**  
 利用者出入口付近に配置。  
 シャワー・更衣室の近くに配置し防犯性に配慮する

**【一体的な利用】**  
 飲食施設と休憩スペースは近接配置し、一体的な利用を可能とする

**【良好な眺望】**  
 北潟湖の良好な自然景観を施設からの眺望に取り込む

**【軒下利用空間】**  
 冬季環境に配慮した軒下空間を整備する

**【バックヤード】**  
 農産物等の搬入出などに利用できるバックヤードを建物背面に整備する

**【駐車場・管理スペース】**  
 ゴミ収集所、搬入出用のスペースなどを確保する

**【敷地高低差】**  
 周辺敷地の高低差を考慮した造成計画とする

**【歩道整備】**  
 敷地内に歩道を整備

**【24 時間利用】**  
 24 時間利用する機能はまとめて配置し、時間帯で区画制限する

**【道路情報発信コーナー】**  
 道路情報発信コーナーを経由したトイレまでの動線計画とする

**動線（凡例）**

	歩行者動線（利用者）
	”（管理者）
	管理車両動線



道の駅「蓮如の里あわら」の空間及び意匠については、吉崎地域の持つ歴史や文化を感じながら、北潟湖や鹿島の森などの周辺の自然と環境に調和する施設整備を基本とします。

また、地域産の素材を使用し、来る人を癒し、くつろぐことができ、また周辺観光の拠点となるような空間・意匠計画とします。

### 1 自然及び文化環境を取り込んだ空間・意匠

- 施設からの眺望に周辺の自然景観を取り込み、汀公園や蓮如上人記念館の湖畔空間と一体となって北潟湖の持つ魅力を最大限に活かしながら、自然の中でくつろげる計画とします。
- 吉崎御坊を中心とする門前町として栄えてきた歴史と文化を踏まえ、周辺の吉崎別院や蓮如上人記念館と調和が図られるよう、和が感じられる外観を基本とします。
- 施設は地域産の素材を有効に活用することを基本とし、経済性や耐久性、メンテナンス性に優れた計画とします。特に屋根瓦は、寒冷地でも凍らず、割れにくく、長持ちし、あきのこない優雅な銀鼠色の越前瓦を活用します。
- 再生可能エネルギーの積極的活用と有効活用に努めます。また、今後の電気自動車等の普及拡大を見据え、その充電スタンドを駐車場の一面に確保します。



施設からの眺望を確保1  
(吉崎御坊跡からの景色)



施設からの眺望を確保2  
(吉崎風景)

### 2 移動しやすく楽しめる空間・意匠

- 汀公園や蓮如上人記念館と一体的に利用しやすい施設レイアウトとし、道の駅利用者が、快適に滞留や回遊ができる計画とします。また、北潟湖畔を周遊するサイクリングの拠点としても活用されやすい空間計画とします。
- 地域振興施設は、「情報案内・休憩」、「物販」、「飲食」の相互利用向上の観点から一体的なものとして関連性を高めて地域の活性化に資する魅力ある空間とします。また、物販、飲食、催しものなどを楽しめるように軒下空間を広めに確保します。

- 地形の高低差を考慮しつつ、高齢者や障がい者などが快適に利用できるように、敷地内や建物内をバリアフリー化するとともに、施設は平屋建てとします。
- 誰でも安全で安心して楽しく利用できるユニバーサルデザインとします。
- 周辺の眺望を楽しめる空間を確保します。
- 道の駅利用者の動線に配慮した配置計画とします。

### 3 地域住民が集える場としての空間・意匠

- 地域住民も気軽に立ち寄り、利用できるように、明るく入りやすい開放的な空間とします。
- 隣接宅地など、周辺の居住環境に配慮した計画とします。

### 4 可変性のある空間計画

- 建物内部は移動可能な間仕切り等で計画し、可変性を有する空間とします。
- 防災拠点としても機能できるよう、無停電設備や防災備蓄なども検討し、平常時と災害時のいずれにも対応できる空間とします。

### 5 冬季環境に配慮した空間計画

- 冬季の積雪等に配慮し、堆雪空間を確保するなど、除雪しやすい施設計画とします。
- 屋根からの落雪等による第三者被害の防止や堆雪に配慮した計画とします。
- 冬季の積雪や凍結時を考慮して滑りにくい路面に配慮するとともに、風雨や風雪を凌げる空間とします。



積雪に配慮した計画1  
(浅井三姉妹の郷軒下)



積雪に配慮した計画2  
(若狭おばま軒下)

## 10 管理運営の基本方針

### 1 管理運営の基本方針

道の駅では、道路利用者の利便性向上と、地域の活性化につながる管理運営に取り組みます。利用者の満足度を得るために、サービスの質の向上や、美観や清潔さを維持します。さらに、「ここにしかない」道の駅とするための地域の独自性や、地域ならではの商品や空間づくりにも取り組みます。

こうした背景を踏まえ、誰もが利用しやすい場にするとともに、地域内外の交流・連携を図り、「おもてなし」を重視した管理運営を推進します。

#### (1) 誰もが立ち寄りたくなる「おもてなしの道の駅」とします

- 利用者に「おもてなし」を提供します。
- いつでもだれでも利用できる、くつろげる場を提供します。
- 利用者が憩い、安らぐ空間を提供するため、行き届いた清掃やごみの削減等、清潔で美しい施設として維持します。

#### (2) 地域を周遊するきっかけの「まちの顔・案内人」となります

- 道の駅や地域との連携により、地域を周遊して楽しんでもらい、まちのリピーターづくりに寄与する道の駅とします。
- 道路利用者に対する交通情報、観光客に対する地域情報等、タイムリーに必要な情報を提供します。
- 地域内や地域間、道の駅間と連携したイベント等を企画します。

#### (3) 地域の人が使いやすく、やりたいことができる「地域のための道の駅」とします

- 地域の住民や物(特産物)、情報が集まる仕組みづくりを目指します。
- 地域交流スペースやイベントスペース等を利用して、地域住民の活動・活躍の場を提供するとともに、イベント開催等のにぎわいづくりに寄与します。
- 地域や利用者のニーズに合わせて対応します。

#### (4) 周辺地区だけでなく、市全体の人とまちを元気にする「地域に還元する道の駅」とします

- あわら市全域の地域産業の振興や新規雇用に寄与するため、地産地消を推進し、農林産物や加工品、オリジナルメニューを提供します。
- 新たな商品開発等に取り組みます。

## 2 管理運営方針

公共施設の管理運営手法は、市が直接管理する方法（公設公営）、指定管理者により管理する方法（公設民営）、施設の管理から運営まで民間事業者が行い管理する方法（民設民営）があります。

道の駅「蓮如の里あわら」では、公設民営を基本とし、管理運営事業者として「第三セクター」または「民間企業」を想定し、指定管理者により管理する方法（市・公設民営）を検討します。

### 道の駅「蓮如の里あわら」想定条件

営業日	355日（毎月第3月曜日定休、年末年始・夏休み期間は無休）	
営業時間	・トイレ・情報発信コーナー	24時間、年中無休
	・農産物直売・物販部門	9:00～18:00
	・飲食部門	11:00～15:00

### 管理運営手法別の優位性検討

	A	B	C	D
整備手法パターン	市が全てのエリアを建設。公的エリアは市が、収益エリアは民間が運営。	市が公的エリアを建設、運営。収益エリアは民間が建設運営。	市が全てのエリアを建設。民間が全てのエリアを運営。	市が公的エリアを建設。民間が収益エリアを建設し、全てのエリアを運営。
公的エリア	公設公営		公設民営	
収益エリア	公設民営	民設民営	公設民営	民設民営
特徴	行政の責任が明確で継続性が高く、市の意見が反映されやすい	行政の責任が明確で継続性が高く、市の意見が反映されやすい	公的エリアは収益の見込みが少ないため民営では必ずしも市の意見が反映されるとは限らない	公的エリアは収益の見込みが少ないため民営では必ずしも市の意見が反映されるとは限らない
	収益エリアの運営のみとなるため、民間が参入しやすい	収益エリアの設計を民間が行うことで、効率的な運営ができる	公的・収益エリアの運営のみとなるため、民間が参入しやすい	収益エリアの設計を民間が行うことで、効率的な運営ができる
	道の駅全体を一体的に運営しにくい場合がある	道の駅全体を一体的に運営しにくい場合がある	道の駅全体を一体的に運営できる	道の駅全体を一体的に運営できる

### 3 収益エリア管理運営方式の検討

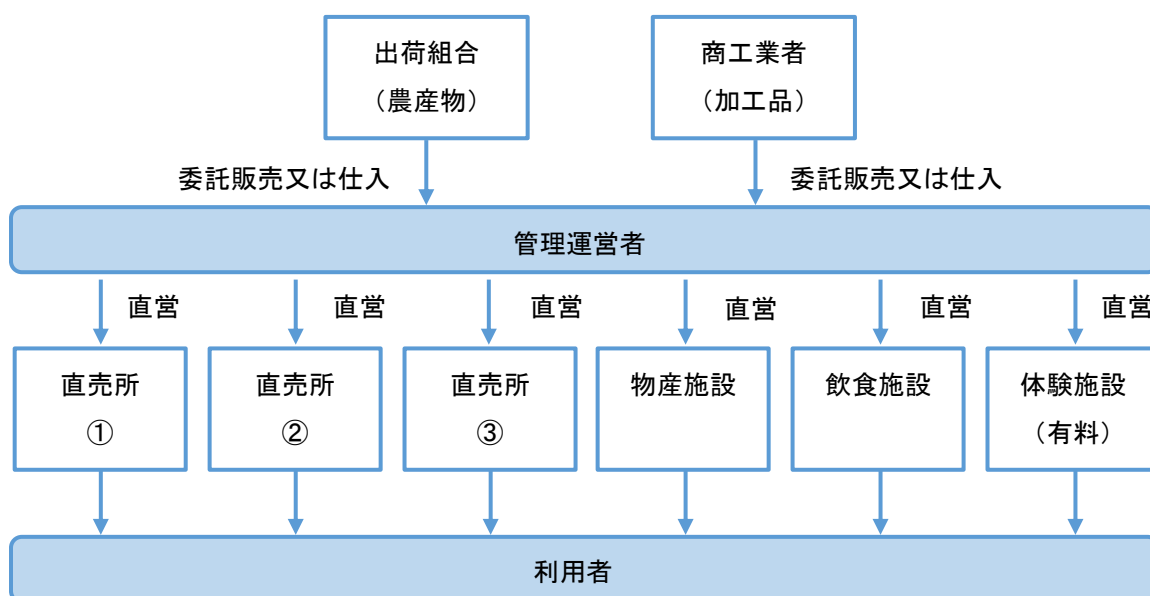
収益エリアの管理運営方式としては、管理運営者による「直営方式」と「テナント方式」の2つが挙げられます。（「直営方式のイメージ」、「テナント方式のイメージ」参照）

この2つの方法を組み合わせた方法（直営施設とテナント施設を組み合わせることで、多様なニーズに対応することもできます。

#### ①直営方式

管理運営者が直接施設を運営。利用者にサービス提供し、売上げ代金を収受する方式です。

※ 生産者等が納入した商品を管理運営者が販売し、売上げの一部を販売手数料として収受する「委託販売」も含む。

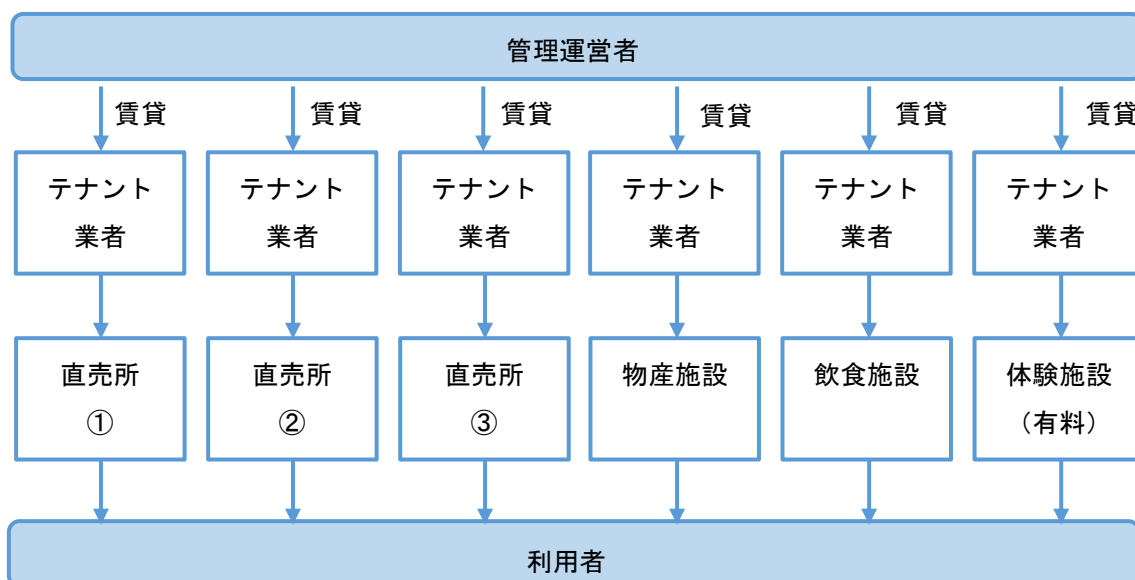


直営方式のイメージ



## ②テナント方式

管理運営者がテナントにスペースを提供し、テナント料を収受する方式です。



テナント方式のイメージ

# 11 整備の基本方針

## 1 道路管理者とあわら市との役割分担

本事業は、道路管理者とあわら市が共同で整備する「一体型」の道の駅として、整備を進める管理・運営方針を実現できる形態を、今後決定していきます。

導入施設		想定される整備主体		
		道路管理者	あわら市	本願寺文化興隆財団
休憩機能	駐車場	○	△	
	トイレ	○	△	
情報発信機能	休憩スペース・情報発信施設	○	△	
地域振興機能	特産物等販売施設		○	
	飲食施設		○	
	観光案内施設		○	
観光周遊促進機能	シャトルバス等停留所		○	
	レンタサイクル		○	
	更衣室・シャワールーム		○	
機能強化施設	鳳凰閣等			○
	遊歩道		△	○

※ △は、施設規模等の状況により整備するものとする。

## 2 概算事業費

道の駅整備における概算事業費（調査、測量、設計、用地取得、整備工事費等）は、約6.8億円（吉崎汀公園整備事業費含まず）を見込んでいます。財源確保については、国や県の支援メニューを積極的に活用します。

なお、本事業費は基本計画段階の概算費用であり、今後変更となる場合があります。

### 3 整備スケジュール

令和5年4月中旬、蓮如忌前のオープンを目指します。

道の駅「蓮如の里あわら」整備スケジュール

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3 年 度	重点道の駅申請（国土交通省）												
	調査、測量												
	基本設計業務												
	実施設計業務												
	用地取得費												
	敷地造成、建築物、駐車場の整備												
4 年 度	道の駅登録申請（国土交通省）												
	敷地造成、建築物、駐車場の整備												
5 年 度	4月供用開始予定	▲											

### 4 補助金・交付金の活用

本事業における導入機能等を踏まえ、適用可能性の想定される主な補助金・交付金は次のページに示すとおりです。なお、今後情報等を踏まえ、適用される補助金・交付金があれば検討していきます。

適用可能性のある主な補助金・交付金

制度名	概要	補助事業者	支援内容
社会資本整備総合交付金 (道路事業)	「社会資本総合整備計画」の目標を実現するために実施する基幹的な事業及び基幹事業と一体的に実施する事業等を支援	国土交通省	道路の新設・改築や休憩施設、情報提供施設、防災施設等の整備に関する事業 ・ 交付率 50～55%
地方創生拠点整備交付金	地域経済の活性化という喫緊の課題に対応するため、地域の観光振興や住民所得の向上等の基盤となる先導的な施設整備等を支援	内閣府	地域資源を効果的に活用し、ローカルイノベーションを起こすことにより、観光や農林水産業の先駆的な振興に資する施設 地域での魅力的なまちづくりを実現し、交流人口の拡大や地域の消費拡大に効果的に結びつく施設 など ・ 交付率50%
電気自動車・プラグインハイブリッド自動車の充電インフラ整備事業費補助金	電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHEV）に必要な充電インフラの整備を加速することにより、設備投資等を喚起するとともに、次世代自動車の更なる普及を促進し、日本経済の下支えを図る	経済産業省	充電器の購入費及び工事費の一部補助 ・ 交付率 定額

1 策定の経緯

	開催日	検討項目
第1回	令和2年10月12日	整備構想（案）検討
第2回	令和2年11月9日	道の駅導入機能及び施設等、ゾーニング計画の検討
第3回	令和2年12月4日	道の駅導入機能及び施設等、空間計画・意匠計画、管理運営の基本方針の検討
第4回	令和3年2月10日	ゾーニング計画、施設配置計画、管理運営の基本方針の検討
第5回	令和3年3月18日	道の駅「蓮如の里あわら」基本計画（案）の検討

## 2 あわら市道の駅基本計画策定委員会メンバー

### ●策定委員

敬称略 順不同

No	氏名	所属及び役職名	備考
1	川本 義海	福井大学学術研究院工学系部門 教授	委員長
2	城戸橋政雄	あわら市副市長	副委員長
3	山田 重喜	あわら市議会議長	
4	吉田 太一	あわら市議会副議長	
5	田井野章浩	一般財団法人本願寺文化興隆財団 外事部 部長	
6	末富 攻	吉崎地区区長会 会長（吉崎2） 一般社団法人蓮如の里吉崎 理事長	
7-1	古橋 照夫	北潟地区区長会 会長（北潟西）	第1回～3回 策定委員会出席
7-2	清水 一美	北潟地区区長会 会長（北潟東）	第4回及び5回 策定委員会出席
8-1	杉田 光良	細呂木地区区長会 会長（蓮ヶ浦）	第1回～3回 策定委員会出席
8-2	山下 文憲	細呂木地区区長会 会長（沢）	第4回及び5回 策定委員会出席
9	酒井 敏雄	NPO法人細呂木地区創成会 副会長	
10	赤尾 政治	あわら市商工会 会長	
11	前田 健二	あわら市観光協会 会長	
12	深町 治男	福井県農業協同組合坂井基幹支店坂井園芸センターきららの丘担当課長	
13	中林 敬雄	坂井北部丘陵地営農推進協議会 事務局長	
14	田端 和英	北潟漁業協同組合 組合長	
15	宮本久仁彦	国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所 事務所長	

16	平林 透	福井県 土木部 道路保全課長	
17	神門 博文	福井県 土木部 三国土木事務所長	
18	獅子原朋広	福井県 交流文化部 副部長（観光誘客課長取扱）	
19	吉澤 真	福井県 農林水産部 流通販売課長	
20	小嶋 範久	あわら市 創造戦略部 部長	
21	永井 宏昌	あわら市 土木部 部長	
22	武田 正彦	あわら市 経済産業部 部長	

●オブザーバー

敬称略 順不同

No	会社名等	備考
1	(株)阿部総合計画事務所 阿部 浩志	
2	福井県 地域戦略部 市町協働課	
3	(株)国土開発センター福井支店	


●事務局

敬称略 順不同

No	担当課	備考
1	あわら市 創造戦略部 政策広報課	
2	あわら市 土木部 建設課	
3	あわら市 経済産業部 農林水産課	
4	あわら市 経済産業部 観光振興課	







道の駅「蓮如の里あわら」基本計画

---

令和3年3月

あわら市 創造戦略部 政策広報課  
〒919-0692 福井県あわら市市姫三丁目1番1号  
TEL 0776-73-1221 (代)  
URL <http://www.city.awara.lg.jp>

---